

浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

昨日（7日）22時08分に、山頂火口で小規模な噴火が発生しました。

今後も、居住地域の近くまで影響を及ぼす噴火が発生する可能性があることから22時30分に火口周辺警報を発表して噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から3（入山規制）に引き上げました。

火口から概ね4kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が流されて降るため注意してください。

また、降雨時には土石流にも注意してください。噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、図2、図5-①③）

昨日（7日）22時08分に、山頂火口で小規模な噴火が発生し、約20分間継続しました。噴煙の高さは、火口縁上1800m以上上がり、北へ流れました。また、監視カメラで弾道を描いて飛散する大きな噴石が、火口から200m程度まで達したのを確認しました。火砕流は発生しませんでした。

噴火の発生は、2015年6月19日以来です。

・地震・微動・空振の状況（図3、図4、図5-④～⑧）

噴火に伴う地震及び微動は22時06分から始まり、その最大の振幅は、石尊観測点上下動で $54\mu\text{m/s}$ で、噴火に伴う空振は、追分観測点で 0.9Pa でした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 浅間山 噴火の状況（黒斑山監視カメラ（長野県）（22時08分））
弾道を描いて飛散する大きな噴石が、火口から200m程度まで達したのを確認しました。



図2 浅間山 噴煙の状況（左：鬼押監視カメラ（22時09分））
山頂火口で小規模な噴火が発生しました。噴煙の高さは、火口縁上1800m以上上がり、北へ流れました。

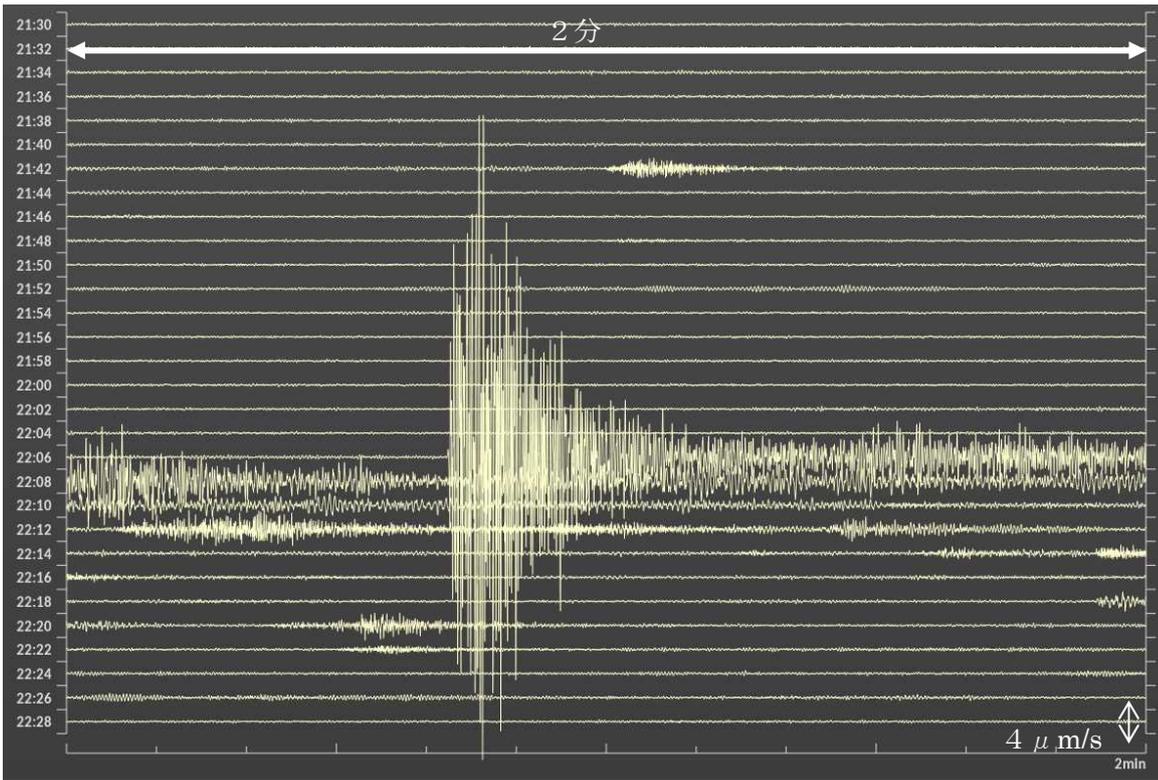


図3 浅間山 噴火時の地震の状況（石尊観測点上下動（21時30分～22時30分））

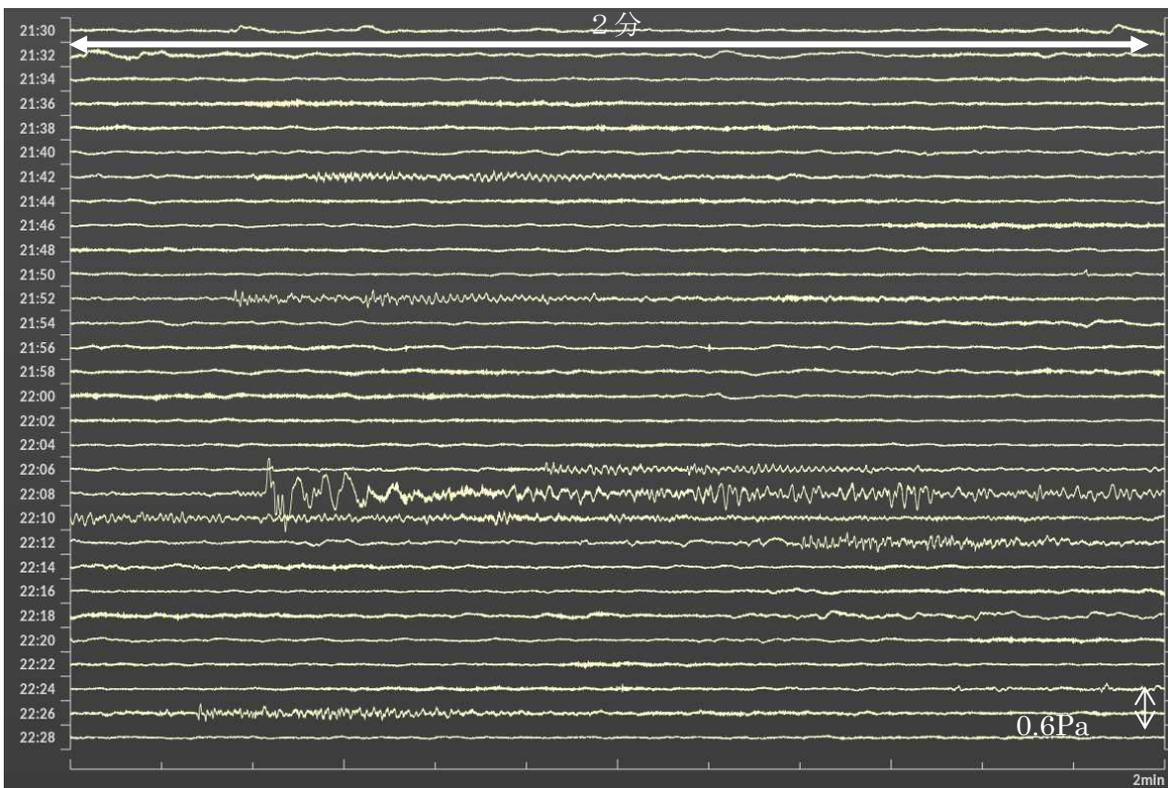


図4 浅間山 噴火時の空振の状況（追分観測点（21時30分～22時30分））

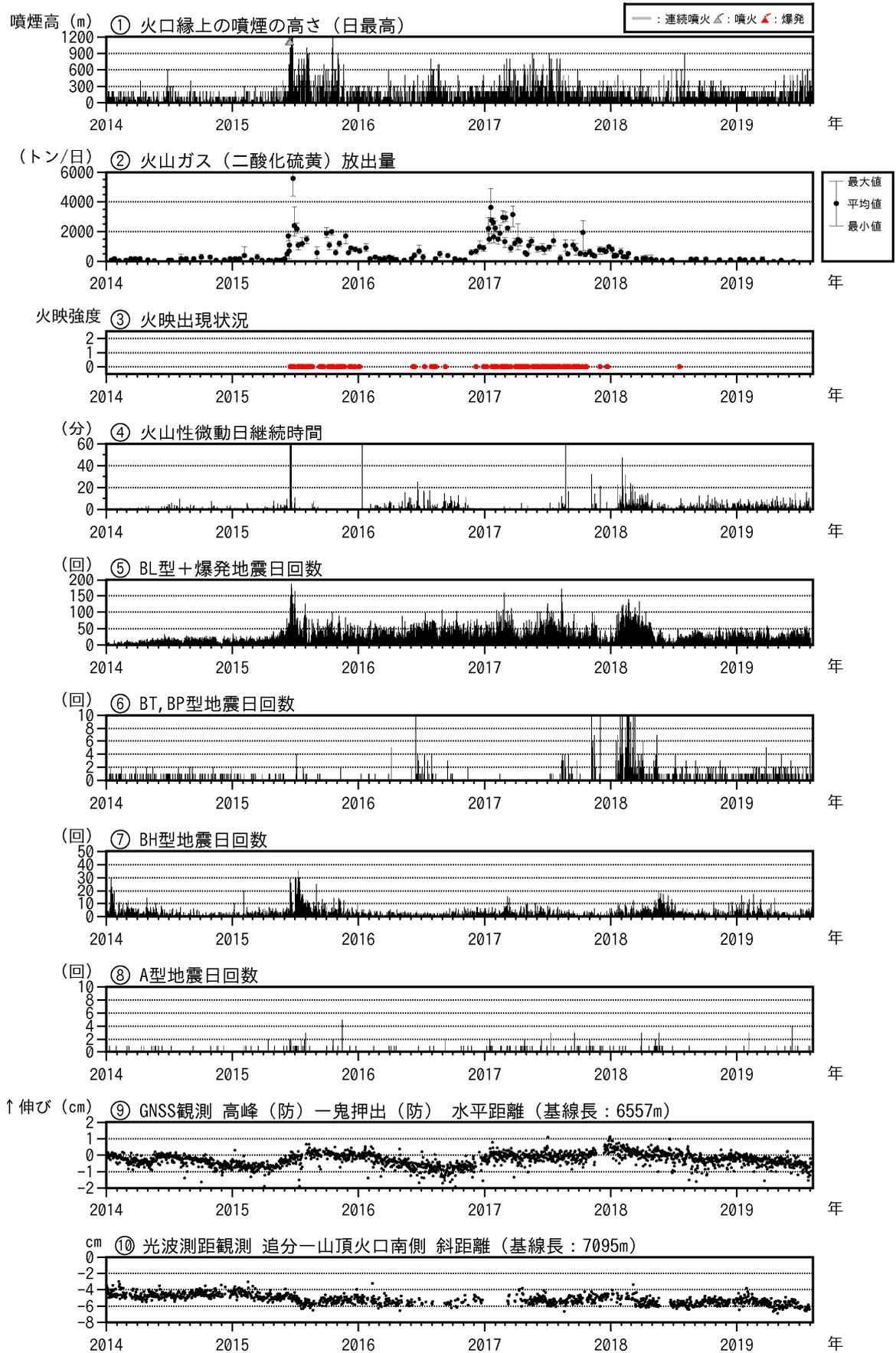
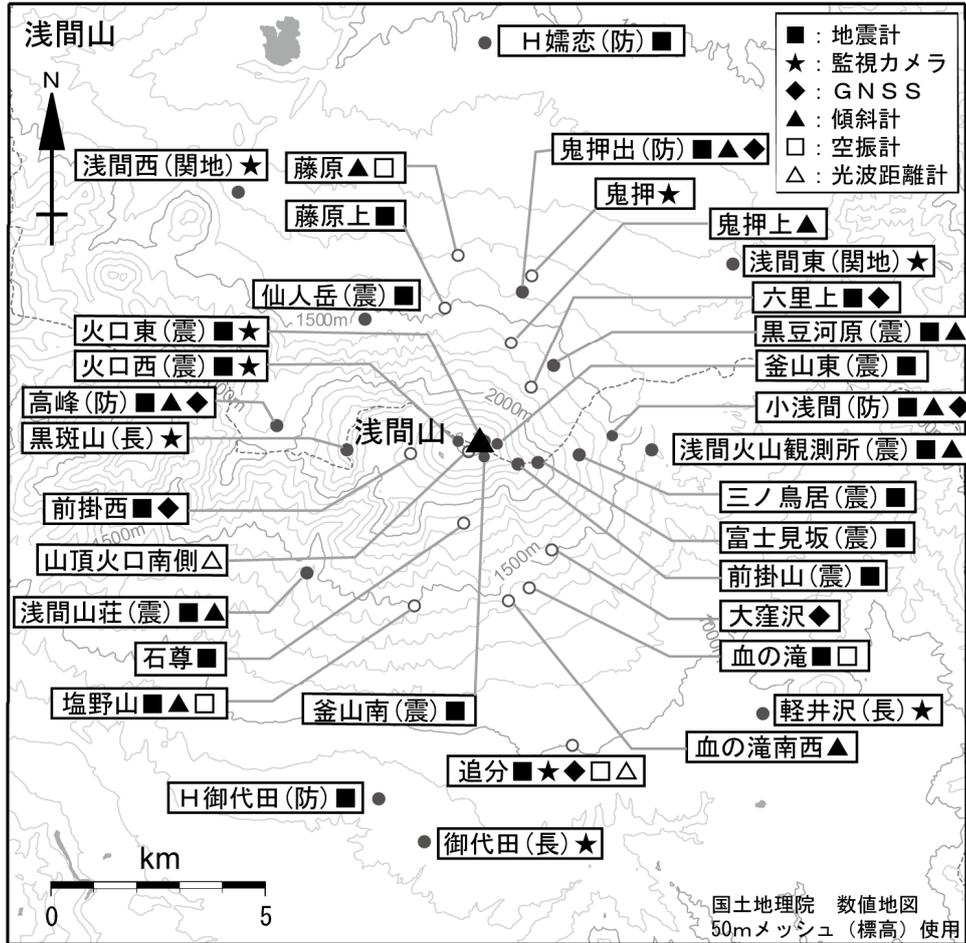


図5 浅間山 火山活動経過図（2014年1月1日～2019年8月7日）



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所、
 (関地) : 関東地方整備局、(長) : 長野県

図6 浅間山 観測点配置図